

# 地域余暇情報提供の実践活動

—— ベルクソンの発行から ——

## 余暇情報・情報の発信・分類

○戸田 安信（船橋市自遊人協会）  
 宮下 桂治（順天堂大学）  
 杉本 晴夫（船橋市自遊人協会）

### 1、はじめに

ボランティアな活動をする市町村レクリエーション協会として、市民が生活を楽しむための自己能力の向上のため、全く独自の情報媒体として余暇情報を発信するシステム化することは、本学会の1992年（平成4年）第22回名古屋大会で「レクリエーション運動の実践的展開に関する考察」—個に視点をあてた余暇情報提供システムの開発について—として、宮下、木村、戸田が発表した。今回は、その後の発行体験から「余暇情報の分類」について報告したい。

### 2、船橋市自遊人協会の概要

「自ら遊ぶ人」をコンセプトとする仲間達の集まりの船橋市自遊人協会は、千葉県船橋市にある地域レクリエーション協会だ。入会の条件として「レク指導者」であることを要求しない。つまり市民なら、だれでも個人で入会できる。

本協会の活動は、自由時間の増大に伴い自由時間ライフを、意味的時間価値を高める志向にあわせた、レクリエーション欲求に答えるレクリエーション運動として、①多種多様なレクリエーションプログラムの提供 ②レクリエーション指導者の養成 ③レクリエーションに関する情報を収集して発信する。などの多種多様なレクリエーション活動を展開してきた。

地域レクリエーション協会の組織維持のためには、「人・事務所・資金」の確保が重要であることは、判っていけも具体化する手段が見つからなかった。ところが、足元にあったのです、会員向けに出されていた情報発信を、有料にしての事業化という方法である。

### 3、生活提案マガジン「ベルクソン」について

余暇活動の個人化支援として「余暇に関する情報」を、市民の一人一人に積極的に提供するために「余暇情報」を安価で大量に情報を集積し、「ローコスト、ハイ・インパクト」を、創刊コンセプトとし1991年11月に創刊した。

生活提案マガジン「ベルクソン」という余暇情報提供システム構築にあたっては、市民やさまざまな団体や機関から多角的に集められた情報を、情報の内容を審査したりとか、特定の方向に取捨選択せず、地域や活動種目、期日別などに整理して、可能な限り「遊びに関する情報」を市民に提供し、他から与えられるものより自分自身が納得して選んだものを求める傾向に対応し、それらを選ぶのは市民の自分自身の自遊という考え

方である。

情報提供者（行事や事業の主催者）からは、「ベルクソン」を読んでの問い合わせが増加傾向にあること、編集部への読者の投稿などから、市民が自ら情報を選択し個人生活の向上に役立っていることが感じられる。

#### 4、余暇情報の収集と分類

ごく普通の市民生活を送っている人達の生活者の視点にたった「余暇情報」の収集と提供方法について、船橋市自遊人協会の実践を報告する。

##### (1)「余暇情報」の収集

情報は座って待っていても集まらない。地域で活動しているグループ・サークル、町会・自治会など任意の団体のレクリエーション情報の把握には、地域に立ち戻るのが原点と考えた。

##### ①地域情報

活動情報を探すには団体や人を探すのではなく、活動には場所（空間）が必要であると前提して、船橋市内にある公民館（24館）や体育施設などにマトを絞った。本協会の会員に、自宅近くの公民館に足を運んでもらったり、会員自身の活動から情報の入手と本協会事務局への返送を依頼することで、市内全域からの情報を入手した。

個人が求める場合は個別に収集しなければならないが、地域レクリエーション協会としての「組織」が、十分に生かされた。

船橋市内の全戸に週刊で、配付されているフリーペーパーとしては「リビング総武の山手版」〔サンケイリビング社〕、「ショッパー」〔東京中日新聞〕など、月2回（隔週）のものは「ふなばし朝日」、「船橋よみうり」は、それぞれの新聞の購読者サービスとして、折り込み配付されている。月刊誌としては、「Myふなばし」が、配布協力店で発行されている。

しかし、それぞれの紙面は行事の予告記事は少なく、過去の行事報告記事が多い各編集長の話では、読者からの投稿や独自の取材ルートでの情報が入手しているそうですが、現在では「ベルクソン」がはるかに情報をリードしている。

##### ②行政情報

行政（船橋市や船橋市教育委員会）が行う、各種のイベント・プログラムの募集は、毎月2回（1日・15日）市内の全戸に、新聞折り込みで発行する「広報ふなばし」である。

紙面は、行政の各機関からの伝達や予告記事が中心である。例えば映画なども、公民館・児童ホーム・視聴覚センターなど、各行政機関別に掲載されているので、読みにくい配列となっている。

このほかに、各行政機関の出す従来の情報の流れは、町会や自治会、子供会などに集団的組織的に流す傾向にあった。市民のひとりひとりの「個」に焦点を当てて流すことなどは無かったのである。

イベントやプログラムに限っての余暇情報は、公民館などの行政機関などに多く置かれている。しかも、行政の縦割りに従って、それぞれの部署に関する情報しかないのである。

### ③商業情報

船橋市内の大型百貨店での展覧会などの催事情報は、各店に依頼することで入手はできるが、掲載し広く情報の伝達手段として、認められるようになれば各店からは、積極的な情報提供（ニュースリリース）がある。

商店街の情報は、前述に比較して大変少ない。歩行者天国などが、あるはずだが情報発信は全く無い。

市広報など公共の広報には、営利を目的とした私企業の宣伝活動をしないという不文律のようなものが存在しているらしい。そのことが、積極的な発信の少ない理由の一つとも聞きいた。

### (2)余暇情報の分類

余暇情報の収集を具体化する時に、どのような内容の情報を集めるかと言う視点で「分類」を試みイメージをつくることにした。

日本レク協会や日本図書分類などを参考に、文献の調査を行い、活動別・内容別の種目による幾つかのパターンは出来たが、しかし私たちの目的に当てはまるものは、無く独自のものを試みた。

#### ①ステップ 1 [地域別分類]

まず最初に、市内を公民館区ごとの「地域別分類」を考えた。自分自身の余暇時間の活動は、区域を越えて行動していることから、この分類方法は適切ではなかった。

#### ②ステップ 2 [活動内容別分類]

次は、イベント、ステージ、スクリーン、アウトドア、カルチャー、などの「活動内容分類」を行い、それぞれを時系列に並べることをした。この方法は、最初の方法より改善されたものの、読者の余暇時間に対応する情報を探すことには、不便でした。

#### ③ステップ 3 [時系列分類]

たどり着いて、現在行っている方法である。入手した余暇情報を、日付順・時間順に並べる。この方法は、その人なりの時間に対応できるし、予定もたてやすく、自遊時感に対応できる。

### 5、余暇情報の整理法

一ヶ月で約 200件位集まる余暇情報を整理しなければなりません、試行錯誤を繰り返した。

#### (1)ハンキングホルダー（図書分類方式）

情報を大項目、中項目、小項目に分けて分類・保存する方式である。ランニングコストとしては、ファイルの購入費用、スチールの引出し型キャビネットの収容スペースが必要である。

小項目までの分類まで行くと、内容によってはひとつの項目で分類できず、2～3のファイルに保存することになり、同じ資料をコピーをしたりして、全体の量は増加した。

#### (2)袋ファルについて（百科辞典方式）

現在の船橋市自遊人協会が使用している情報整理システムである。山根式と呼ばれ

この方法は、A-4サイズの封筒を使用する。

収納は、三つの言葉（例えばレクリエーションは、「レクリ」で表す）と期日を記入して、五十音順に並べて収納する。スチール本棚に収納すると、5段の棚には、最大約500件が納まります。

情報を検索する時は、三つの言葉をキーワードに探す。最近では、電子手帳の住所録を使って、三つの言葉を入力してデータベースとして検索することになっている。

情報が例えば、行事（活動内容）・人・場所・時間などで重複してくることがある。こんな時も情報を分類しないで、袋に投入しておくだけでよい。また、冊子などの資料も収納しやすいのが特徴である。

期日が一年経過したら、別の場所に保存してしまう。

### (3)ワープロのカード型ソフト

ワープロとは、文書作成機能だけのパソコンである。ただし、最近のワープロにはカード型ソフトの内蔵のものがあり、初期の段階では結構やくに立っていた。

最大の欠点は、記憶容量の不足から情報の集積が少なく、パンクさせてしまった。

### (4)パソコンのカード型ソフト

カード型のソフトにより、団体・人について入力してある。それぞれ活動内容で検索することが出来ます。最近の機種は、ハードディスクの拡張で記憶容量が、飛躍的に増大が、経費が問題である。

### (5)光ディスク

現在導入を検討中の、最も最新型の情報集積・検索のシステムです。袋ファイルの形式を、光ディスクに読み込んで、つけたインデックスにより、検索と出力をするものです。これからの情報の蓄積手段としては、収納スペースがもっとも少ないことが特徴である。

## 6、まとめ

地域の中で行われている多くのレクリエーション活動が、情報の量や質の不足から周知されず、レクリエーション活動の活発化につながらない例を数多く体験した。

例えば、レクリエーションプログラムが一番最初はマスコミ等が大きく取り上げてくれて、参加者も集まり効果を上げることが出来る。しかし2度3度となると掲載されることはまれで、参加者も集まらない状況が出てくる。

生活者である市民に、積極的な活動参加を惹起する方法としての「余暇情報」、それを「見やすく」ということで分類作業の必要が生まれた。

従来の余暇情報の整理分類は、保存が第一で提供という視点は見られなかった。今後も発行を継続するなかで、最善の方法を見いだしていきたい。